

# 中東・イスラーム地域研究 院生研究会

## GRADUATE STUDENT SOCIETY

### FOR MIDDLE EASTERN AND ISLAMIC AREA STUDIES (GSMEIAS)

本研究会の概要 | わたしたちが目指すこと | 本年度の成果

## Our Vision/ Our Project

わたしたち（中東・イスラーム地域研究 院生研究会：GSMEIAS）は、立命館大学大学院学生研究会活動支援制度の助成を受けてAY2023年秋学期より発足した研究コミュニティです。本年度メンバーは、本学大学院および他大学院等で主に中東・イスラーム地域の政治および社会分野を研究する若手研究者（院生）14名で構成されています。本研究会が掲げる目的は、中東・イスラーム地域を対象に「地域研究」を行う同世代の若手研究者が、各々遂行している実証研究の更なる高度化を図ること、およびその成果をより広いコンテキストに位置付ける方法を探求することにあります。専門分野が近接する若手の「ノード（結節点・結び目）」としての役割を担い、「知」の協働・共創が可能となる「場やコミュニティ」を形成・提供すべく、本年度、本研究会では下記3種類のワークショップを軸におき活動を行いました。

### ① 「より広いコンテキスト」に自身の研究を位置付けるための読書会ワークショップ：

本読書会ワークショップでは、普段各自の研究を行う過程でマイクロ寄りになりがちなスコープを意図的にマクロ寄りに移す心がけをすることで、自身の研究をいかにして「より広いコンテキスト」のなかに位置付けることが可能かを研究会メンバーとともに模索し、自身の成果発信能力の強化に努めることを目的としました。GSMEIASでは最終的に3つの読書会分科会グループ（a. イスラーム主義・b. マイノリティ/非国家主体・c. 政治社会科学）を形成し、各分科会が自律分散型で講読文献の選定・読書会の運営までを行いました。

### ② 対面形式での研究報告会：

メンバー各自が、自身で遂行中の研究課題について紹介しフィードバックを得ることができる機会を提供するとともに、各自が自身の「地域研究」とは何かということ言語化したうえで場に問うことを目的としました。  
※なお、②の研究報告会は、現代中東政治研究ネットワーク（CMEPS-J.net）および立命館大学中東・イスラーム研究センター（CMEIS）との共催で公開開催しました。

### ③ 「タネゼミ」

「タネ」を育てて芽吹かせるように、ここではオフィシャルな学会や学術誌に自身の研究を提示する前段階にて、メンバー各自が研究のネタ＝タネを持ち寄り、それにたいしてメンバーと意見交換を行うことで、そのネタを口頭発表や論文などの研究業績として昇華・成長させるための、協働・共創の機会を提供しました。

## 本年度の成果・次年度以降の展望

助成開始（9月末）以降の研究会活動としては、上記①の読書会をオンラインにて4回開催、③の「タネゼミ」企画をオンラインにて2回開催、②の研究報告会（第2回GSMEIAS研究報告会:日英バイリンガル国際ワークショップ）を主催し立命館大学東京キャンパスにて対面形式で1回開催しました。

本研究会では同世代の若手研究者のノード（結節点・結び目）として個々人が遂行する研究のプースターとなる役割を担うという性格上、何よりもまず、研究会メンバーの個々人の研究発表・論文発表という形で研究成果を公開することを目標としました。助成開始後の期間におけるメンバーの主な成果は下記の通りです。（マル内の数字は本数・件数を指す）

6

学会誌への論文発表

28

国内/国際学会、研究会・  
シンポジウム等での口頭発表

1

書評、総説や解説

ほか、メンバーの修士学位論文など。9月以前には、日本中東学会等の国内学会やISAなどの国際学会での口頭発表・ポスター発表等も行いました。

次年度以降も引き続きメンバー考案で、さまざまな「知」の協働・共創のための企画、および研究発表の場を創りあげてまいります。引き続きご指導・ご支援のほど、よろしくごお願い申し上げます。

作成者：AY2024年度 研究会代表 米田 優作（立命館大学大学院 国際関係研究科 博士後期課程）